

一般質問



和田 議員

○松浦市の医療体制について

質 市が誘致した松浦中央病院の医師の確保について、どのような具体的施策を講じるのか、お尋ねします。

市長 松浦中央病院の医師の確保に係る支援については、令和3年度から5年度まで佐賀大学に奨学寄付を行いました。また、長崎大学、佐賀大学および長崎県庁、県の関連機関に、病院の方々と出向き、医師の派遣依頼を行っており、今後も継続する必要がありますと考えています。さらに、国や県の医師および研修医派遣の制度が利用可能であるか、県や病院と連携し検討を行っています。また病院の医師確保に関する取り組みに対して、市としてどのような支援ができるのか、県や病院と協議をしつつ、具体的な施策を講じたいと考えています。

市長 新規開業・事業承継については、後継者不足等のため、やむを得ず病院等が廃業となった場合、市民はもとより、そこで勤務される職

員、さらには地域の医療体制に大きな影響を与えることから、重要であり、かつ、困難な課題であると認識しています。支援策については、地域への経済効果と共に地域の医療資源を継続的に確保していくという観点から検討する必要があります、まずは地域医療を所管する県と連携を取りつつ、地元の医師会との協議を踏まえて、有効な支援策を検討していきたいと考えています。

質 他自治体では組織として一体的な支援体制を整備しているところもあるようです。本市においてもそのような組織体制の整備が必要と考えますが、市長の考えをお尋ねします。

市長 本市の高齢者の医療に関する協力的体制については、地域包括支援センターに医療介護連携コーディネートーターを配置し、在宅医療介護に関する市民からの相談や、市内外の医療機関とのさまざまな調整を行っています。また、医療機関の連携強化に努めており、本市でも平成29年度に松浦市在宅医療介護連絡協議会を立ち上げ、主に市内医療機関における在宅医療に関する課題に関して協議を行っているところです。組織体制の見直しについては、今後状況の変化などに伴い実施していきたいと考えています。

このほか、「志佐小学校屋内運動場改築について」を質問しました。

一般質問



立 議員

○志佐川はもとより市内河川の生態系の現状と本来の河川の实情について

質 川には多くの生物が生息しているが、近年護岸の大部分は目詰工法のため、水中生物は隠れる場所が無いため多くが捕食されている。毎回アユの放流に多額の費用を支出しているが、結果的には川鵜の餌になっている。アユが泳いでいるのを見たことがない。河川を管轄している県に対し、川の生物に限りなく寄り添った河川工法を再度認識されるよう強く申し出ていただきたい。水面は自然石を用いて、隠れ場を作り、魚が回避する住環境でなければと思うが、どうお考えか。

建設課長 河川整備については、環境に配慮した形で整備がされています。例えば、ブロック等も環境に配慮したタイプを使ったり、河床は全面コンクリートではなく、現地に存在する自然石を利用したり、また、床掘りで発生した土砂等で埋め戻しをして、なるべく環境になじむような形で整備がされている状況です。議員ご指摘の親水公園などを含む河川整備を早期に実現できるように県に

も伝えていきたいと思えます。

○上志佐小学校の特認校としての今後について

質 特認校制度について、先進自治体において研修を深めた。生まれながら人前で非常に緊張する子、大勢の中に溶け込むことができない子どもを校区を廃して、市内全域から特認校に登校ができて、中学校生活では見違える程精神的緊張は解消され活気溢れる学校生活を過ごせる子ども育成を目指す制度であるが、上志佐小学校における特認校制度について伺いたい。

教育長 令和6年2月に上志佐小学校特別転入学要綱を一部改正し、市内どこからでも上志佐小学校を選択できるようにになりました。特認校の目的は、自然環境に恵まれた小規模校としての特性を生かした上志佐小学校での教育を受けたい、受けさせたい場合に、そこでの教育を受けることができるようになることです。また、人数が増えることでの複式学級の解消も期待しています。

今後さらに力を入れていくこととしては広報活動で、市報等での周知、各家庭へのチラシの配布、就学時健診での説明などを行ってまいります。また、市ホームページから上志佐小学校のホームページへのリンクを貼り、学校の取り組みの様子を閲覧できるようにしています。